

令和4年度 第3回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和4年11月30日（水曜日） 15時から17時まで

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、WEB上での意見交換による開催）

出席者 佐藤委員、蛭川委員、藤田委員、高江洲委員、杉田委員、神作委員、花形委員、中島委員、安井委員、北川委員

欠席者 中村委員

傍聴 4名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長外川 他4名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料確認 次第 資料1 令和4年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告 資料2 各検討チーム報告 資料3 私たちが目指す相談支援専門員の姿 Ver. 7 中村委員から、第3回と第4回の検討会を欠席される旨連絡をいただいた。 記録のため速記者の方が参加をしていること、会議の内容の録音についてご了解いただきたい。また、傍聴として、指定研修事業者、都庁関係者が参加している。 新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、Web会議で実施をしている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 中村委員の欠席に伴い、人材育成チームのリーダー（副委員長）が不在となる。北川委員にお願いさせていただいてもよろしいか。
各委員	(異議なし)

2 検討事項

(1) 令和4年度サービス管理責任者等指導者養成研修会（国研修）受講報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今回、国研修を受講された委員に報告を願いたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 私が参加したのは意思決定支援コース。 意思決定支援は全てのサービスの土台で、本人中心の支援には意思決定のための支援も当然不可欠ということが何回も強調されていた。 自分の経験や知識によって獲得できるものも違ってくるということをグループワーク、演習を通して支援者自らが気づくといった研修の仕組みが紹介された。 研修を受けて、改めて昨年度の東京都の研修、藤田さんが担当してくださった東京都の意思決定支援の研修は、今回受けた国研修に忠実で、かつ当事者の声、ASDのご本人さんや知的障害の人の自立の話が盛り込まれていて、とても良い研修だったと改めて思った。 演習に取り入れる良さは、意見交換で情報が得られるところにあると思った。

	<p>例えば、困難と分かっているにもかかわらず突き進むと、結果がどうであれ後悔がないということ、自分の人生に置き換えて、反対意見を押し通したことについて、一人一人が意見を言い、経験がある人は大抵後悔をしていないという結果をみんなでも共有をする。すごく当たり前のことだが、施設を出たいとか一人暮らしをしたいとか、周りが反対したくなるような意見でも尊重されることが大事だということに気づかされたり、パターンリズムは良くないと分かっている、やっぱりパターンリズムに陥りがちになっているというのを、他の人と話をすることで基礎に戻れる良さがあると思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都の研修では初任者研修で本人中心支援というのをしつこいくらい伝えてきているので、その初任者研修を経て実践を得た東京都の相談支援専門員達がこの意思決定ガイドラインの知識と、演習を通して意思決定が人として当たり前にあるということを実感していくというのは相談支援の実践の補強になると改めて感じた。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児支援コースは、標準カリキュラムとして初めて国が示した。標準カリキュラムでは、2日間13時間分のを1日でおさらいする形で受講した。 ・伝達としては、無理をして創り出すのではなく、今の相談支援の研修に関わる人、それからサビ児管の研修に関わる人と一緒に、示した標準カリキュラムでとにかくやるということを強調して言われた。 ・児童の支援は、来年度からこども家庭庁に移管するが、この研修は今の所管との共管になる。 ・研修の内容としては、児童の押さえるところとして発達の観点がある。そして、本人の発達の部分だけじゃなく、家族支援、地域支援、これも大きな意味で発達支援ということを押さえて、いつでも基本軸に立ち戻れる研修にしてほしいと言われた。 ・2日間13時間の研修を東京都で実施するとなると、かなりハードルが高い。押さえるべきところを例えば動画を使ったり、ダイジェスト版にするといった工夫をしながら、標準の半分で、演習も入れながらまずやることはできそうなんじゃないかと考えた。 ・演習も全部をサビ児管の方と協働するというのもありだが、ニーズ整理とかモニタリング演習を両者の立場、視点の違いも意識して相手の立場を知るといったことも役立つので、そういった演習を入れて2日間コースを1日で組み立てられるのではないかという感想を持った。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援コースに参加した。 ・就労支援コースの方も本来は2日間の研修を1日に圧縮した形での提示だったので、全体的にはポイントを絞った内容だった。 ・報告書の内容を少し抜粋してお話させていただくと、最初のプログラムがサービス管理責任者と相談支援専門員の役割、最後の講義が就労支援におけるケアマネジメントで、サービス管理責任者も全体を通して連携やケアマネジメン

	<p>トの重要性が色々なところで強調されていた印象。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そもそも新しいカリキュラムの前には就労支援のコースが別立てであったが、新しいカリキュラムになってからは一旦なくなった。しかし、やはり就労支援のサービスの多さというところと、ニーズもあって今回専門コース別研修で、ご提示いただいた形。 ・働くという部分に関しては一応前提としては、一般就労のみならず福祉的就労も含むというところの提示はあったが、プログラム内容を見ていただくとおり、一般就労支援の方がすごく内容的には手厚い印象で、いわゆる福祉的就労の就労継続支援B型のサービス管理責任者に対する内容は全体を通して少ないボリュームという印象はあった。 ・就労支援の難しさかと思うが、本人理解と同時に企業理解というところで、相互の理解を促進するような伝達というところがあったので、立ち位置的に本人中心支援というところの難しさも、場面的にはあるのかなという印象があった。 ・私は東京都から参加したが、サービス管理責任者の検討会からも参加されていて、グループの中では6人中4名がサービス管理責任者の方で、相談支援は私を含めて2名の構成のグループだった。 ・今回の国研修のように、東京都に関しても今後は連携等を強化していくという部分では研修づくりを切り口にして、サービス管理責任者の検討会や、研修づくりみたいなどころと具体的に連携場面をつくっていくというところも一つなのかなというふうに思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ご質問等があれば挙手アイコンをご使用いただき、表示していただきたい。
各委員	(挙手なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では、先に進ませていただきたい。

(2) 各検討チームからの報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、検討事項の(2)各検討チームからの報告をお願いしたい。 ・第2回の検討会から本日までかなり動いていただいたグループもあったかと思う。年度末までチームがどう動くのかという活動計画と来年度に引継ぎたいことについて、副委員長から10分程度のご報告をいただきたい。 ・まず、内容の整理チームの蛭川副委員長、次に実習チームの藤田副委員長、最後に、人材育成チームの北川副委員長からご説明を頂戴したい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の整理チームは、大体月1ペースで集まり、打合せを重ねた。 ・「東京都の目指す相談支援専門員の姿」の「東京都の研修の仕組み」の部分を使わせてもらい、全体を俯瞰して各研修で重なり合う部分の内容の整理をした。 ・また、各研修で共通して使用すべきツールや方法論を検討し、令和5年度の研修に反映させるにはどうしたらいいかということをもまず話し、共通していたツールはフォーマットを統一し、全ての研修が連動性、連続性、循環性を持っていることを語るスライドやノートを作ることをチームの目指すところとし

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その結果、お配りした資料にあるように基本情報グラフィック、地域情報調べ、他職種連携を共通するツールとした。 ・基本情報に関しては3種類あった表を1枚にまとめ、逆に、地域情報調べに関しては研修ごとに必要なものだけ載っていた表を全部表示させて表すことで、将来的にはここまでの情報を把握していくということを初任研のうちから暗に示していく意味合いを持たせたフォーマットにしてみた。 ・連続性、連動性を示すためにこの研修の仕組みをつくらせてもらい、チームアプローチの部分を活用して初任者から主任までのそれぞれの役割や連携の形を示すスライドとノートを作った。 ・これらを検討する中で、主任研修の推薦条件があった方がいいというのが何度となく出た。個人のスキルアップや加算目当ての主任研修ではなくて、本当に地域の中核人材としての役割を担っているかどうかというのを官民両方で確認できる情報、方法が必要ではないかということ。 ・もう一つとして、スタディサプリのような受講者向けの映像等による補強教材があると良いのではないかという話があった。 ・本日お配りした4つの資料は、研修の仕組みの表とそれを説明するためのノート、基本情報グラフィック、地域情報調べのフォーマット、最後がチームアプローチのスライドとその説明になる。実際にどう使うか、使いやすさや使いづらさについて意見をいただきたい。 ・主任研修の条件については、チームの中では演習指導者養成研修が受講済みであること、東京都の研修のファシリテーターであること、地元の研修で企画やファシリテーターを担う等の人材育成支援に携わっていること、東京都のネットワークに寄与していることがあった。 ・各自治体でも主任研修申込者がどんな活動をしているのか、どんな活動をしていたら地元で寄与されるのか、地元の主任相談支援専門員やネットワークときちんと情報を共有できる仕組みがあるといいのではないかと。他のチームとも重なる部分もあるかと思うので主任研修の推薦条件やそれをどう提示したらいいのかを相談したい。 ・映像による教材に関しては、整理チームが作りたいというより、こういったものがあると良いかどうかの意見が今年度中にまとめれば、来年度検討できるのではという提案となる。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・主に3点のところがポイントかと思って聞いていた。主任の推薦条件の検討、研修補強の副教材について、本日提示された資料の中を皆さんに見ていただきたいところ ・スタディサプりに関しましては、来年度計画でもいいというチームのご意見かと思った。 ・主任の推薦条件は、1回で決められることではないと思うので、意見を頂戴し

	<p>ながら、来年度に引き続き整えていく形を、後半のほうで検討させていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続いて、実習チームの藤田副委員長、ご報告をお願いしたい。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、どんな課題があるか、それについてどうしていくかといった話合いをしてきた。 ・相談支援従事者研修を担当してくださる行政職員の方たちの研修に対する理解が課題。また、地域実習という形で新しくカリキュラムが組まれたが、実習対応者の人的な不足、SVスキルについてのばらつきがあった。 ・初任者研修の地域実習における5ピクチャーズ、ニーズ整理表等のツールについて、実習対応者が理解をしていれば問題はないが、まだツールについて理解されていなくてなかなか難しい場合もあるので、ツールの理解と取扱いについての課題があるかと思う。 ・それから、地域実習をすることでその地域にどんな効果があるか。対応してくださった相談員に対しての効果も、今後、検証していかなければならない課題の一つだろう。 ・これらの課題について、研修そのものの深い理解に関しては、実習チームでは担当できていないが、行政担当者と拠点機関の実習対応者に向けて相談支援従事者研修の概要と地域実習の進め方について説明会を開催するという形で対応した。 ・地域実習の中では、使用するツールの理解も含めて、アセスメントの習熟度について確認をしていくことになろうかと思うので、ツールの使い方の説明も行った。 ・具体的に取り組んだこととしては、初任者研修の実習ガイドの作成で、前回の検討会が終わった後、実習チームで集まり、実習ガイドの作成を決定して、作成に当たった。 ・実習ガイドを区市町村の担当者に送付し、9月27日の説明会では区市町村の担当者、拠点機関の担当者に参加いただき、実習の説明を行った。 ・説明会では、初任者研修の趣旨、実習そのものについての説明、実習対応時のイメージがつくようにデモンストレーション、全体を通して質疑応答を行なった。 ・当日は29の区と市、町の担当者、拠点機関の方が参加してくださった。 ・当日参加できなかった方もいらっしゃったので、東京都として幾つかルールを設けた上で、説明会の動画を配信している。 ・東京都の相談支援専門員ネットワークの皆さんによる研修なども行っていただき、実習担当の対応の仕方、SV方法についての学び合いの時間もつくっていただいた。 ・今後の取組だが、初任者研修と現任研修の地域実習に関して、検証をしていく必要があるだろうとの課題もあったので、区市町村の担当者、拠点機関の担当

	<p>者に向けてアンケートを実施する方向で考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修が終わったところだと想定をしていたが、少し期間が短いので、集まった結果をどこまで次年度の実習などに生かしていけるか、時間が足りなくなりそうだといったことをチームの中で話している。 ・実習ガイドは、資料2の中に入れていただいた。今回は、初めて実習ガイドを作ったので、ボリューム的にはたくさんではあるが、実習を重ねていく中で質を上げていながら、ポイントを絞っていくことができればとも考えている。 ・また、次の現任研の実習に向けても、少しブラッシュアップしていければとも考えている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・実習チームは、かなりたくさんの動きをされて、本当にありがたく思っている。 ・説明会を実施して、それに対する効果測定を検討したいというところをご提案いただいた。 ・その点を含めて、皆様からご意見を頂戴したい。チームの皆様からも説明会を実施した後の状況や実際に実施してみても思われたこともご報告いただけたらと思っている。 ・最後に、人材育成チームの北川副委員長に報告をお願いしたい。
北川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちが目指す相談支援専門員の姿」のVer. 7から8へというところで、1枚には収まらないということで三つの視点で作ろうということになった。 ・1つ目は、行政に向けてというお手紙的な視点。簡単に言えば「相談支援専門員とは」というところをきちっと伝えていく。なぜかという、行政はどうしても異動があり「相談支援専門員って何」というところから始まってしまうので、1枚目で大前提を押さえようということ ・2つ目が、Ver. 7から「人材育成の仕組み」を除く上2段の部分。新しく制度が変わったものをきちんと盛り込んで作ろうということ ・3つ目は、「人材育成の仕組み」について、内容の整理チームの成果物を全部いただいて、3枚目にくっつけるということ ・この三つの視点でVer. 8へのバージョンアップを考えている。 ・2枚目に当たるところについては、主に共生社会に向けてという部分を明確に出していき、それに向けて何が必要なのかを分解していくという必要性が出てきた。ソーシャルワーカーとしてという視点、地域という視点が不可欠になってくるので、ここをきちっと盛り込んだ文言を入れる。 ・皆さんの資料では30頁目になるが、特に価値の部分、意思決定支援が権利擁護の部分に隠れてしまっていたので、はっきりと打ち出すということ。知識の部分の法制度や福祉サービスの知識では、土台の最初になれば進むことができないということ。技術の部分では地域というところを意識して書いていく。 ・「相談支援専門員は」では、地域、官民協働ということを今回載せている。体制整備に向けて地域をつくっていくところは、どうしても官民協働でなければできない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援専門員の役割としては、体制整備に向けて、地域の課題を解決していく仕組みをつくっていくところまでの、ソーシャルワーカーとしての役割を意識できるように、あえてこの文言を入れている。 ・態度と姿勢の部分では、相談支援専門員各自が段階を踏むごとに人材育成に貢献していくということで、演習指導者養成研修や主任相談支援専門員というのは、ただ地域にいただけじゃないことを意識していくように。主任相談支援専門員も成長していかなければいけないというメッセージを含めて、ここを載せていく。 ・最終的な段階にはなっていないが、今年度中には佐藤先生と一緒にVer. 8へまとめていく。まだ半ばのところなので、皆さんにご意見をいただきたいと思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の29頁、30頁のところを人材育成チームで検討した内容になっている。相談支援専門員の姿のところの文章がこれでよろしいのかということも含めてご検討いただきたいのと、北川副委員長が言ってくださったとおり、新しい文言を今の時代に合わせた文言を入れたところについて齟齬がないかというところをご確認いただきたい。 ・また、内容整理チームのペーパーを拝見させていただいて、非常に良いもので、かなり細かく組み立てられていたので、それをぜひVer. 8として一緒にしていきたいと考えている。 ・以上でチームの代表の副委員長からお話を頂戴したが、補足があれば、挙手マークを押してお知らせいただきたい。
各委員	(挙手なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上で検討事項の2を終了とさせていただきたい。

(3) 意見交換

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ここから、年度末に向けてと来年度に引き継ぐことを中心に意見交換をさせていただきたい。 ・主に4点話し合いたいですが、まず、現任研修は来年度早々に動き出す。来年度の検討会発足後の準備では間に合わないのので、ここでご相談をさせていただきたい。 ・事務局から来年度のスケジュール、実施方法、準備の段取りについて説明いただき、委員の皆様からご意見を頂戴したい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度予算の確定前の情報のため、変更があり得ることをご承知おきいただきたい。 ・研修の規模は、初任者研修が600人、現任研修が630人、主任研修が100人、専門コース別研修が450人。 ・実施時期は、今年度と同様、現任研修が6月から8月頃、初任者研修が10月から2月頃、主任研修が2月頃を想定している。専門コース別研修の実施時期は未定。

	<ul style="list-style-type: none"> ・実施方法は、会場での開催を基本にしたいが、会場に来ることが難しい方々のために一部オンラインの日程を残すことも考えている。 ・今年度の演習指導者養成研修の受講者が過去最多の29名いらっしゃる。これらの方々とも一緒に来年度のファシリテーター調整ができたらと思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は検討チームを内容整理、実習、人材育成のテーマ別にしたので、初任、現任、主任という各研修のどのチームにも振られるような感じでもあり、振られていない感じでもあるという、非常に曖昧になってしまっている部分がある。 ・年度当初は、検討会の役割として、研修を見渡す役割になっていくということで、今回このチーム割りとした。その中で各研修の部分についてはチーム関係なくお手伝いいただいていたかと思う。 ・ただ、細かいことの決め方が非常に難しいチーム構成になっていることもあり、今年度どこかで現任研修のやり方を決めたいと思っていた。 ・事前にチームリーダーの方々と打合せをさせていただいた際に、実習チームで、現任研修の取りまとめをお願いできないかとお話をさせていただいた。 ・細かいところは、検討会ではないところで動いてくださっている方々をお願いをしていきたいが、これまでの経験者にサポートについていただくことについて検討させていただきたい。 ・藤田さんに、実習チームの感触はいかがか。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの皆さんにもお話をさせていただいた。 ・どこかで誰かがやらなければいけないことは、皆さん共通の理解とっており、やっていくべきだと思う。 ・次年度の研修についてどう調整をしていくかも課題だと意見をいただいている。 ・初任者研修の見直しがどんなふうに行われたのか、うまくやれているのかといった意見もあり、同じやり方で本当にうまくいくのかも考えざるを得ない。 ・テーマごとに担当した方がいて、その方を中心に研修のノート、教材作りも進めていただいたが、実際には一人でやっていただいたこともあったかと思う。今後もそういう形でいいかどうか、実際に今後携わってくれる方、次年度に向けてのサポートしてくださる方のご意見も頂戴をしたい。 ・今日もお話を聞いている中で、内容整理チーム、人材育成チームで作っていただいているものを、いつの時点でどういうふうに反映をしていくのかも考えなければならないと思った。 ・打合せの段階で実習チームにというお話はいただいているので、私のほうでも次年度に向けてやっていく方向で考えている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そのほかの実習チームの皆様のご意見を頂戴したい。現任の動きに関して実習チームをメインに、それ以外のチームも補完的に動いていただくお願いをしたいと思っているが、神作委員、いかがか。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> ・正直なことを申し上げると、検討委員の役割のところと、現任研を担当する人

	<p>なのか、初任研を担当する人なのかという、人の整理というところは、私自身の中ではあまりできていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こことここを被っている人が、1年間ずっとそういう形で動いているところがあるので、誰かがやらなきゃいけないという意味で、藤田さんがのりしろを担っていただけるのであれば、ある程度人を指名して、協力者を募っているところと思うので、そういうやり方をしなければいけないのかなと。 ・本来であれば、チームを組んで検討すべきだと思うが、人数が多ければ多いほど、日程の調整が本当に大変で、なかなか身動きが取れにくくなっているところでは、ある程度、少数が中心となってノートを書いていただく方がいて、そこにサポート的に誰かが付いて、チームとして全体を見渡していただく藤田さんがいるといいのかと思っている。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実習チームというチームができて、地域行政向けにゼロから何かをつくるころなので、大変なことだとは思っている。 ・初任研を作ってきて、同じような形で今度は現任研のひな形を作るということを、今年苦労しながらもできれば、来年は初任研の実習も現任研の実習も少し中身を見直すというぐらいで済むと期待している。 ・初任研の当日の進行スライドをメインファシリテーターにお願いをするのが今年の方針だったが、どこを直せばいいのやらという感じになってしまった。研修を作っている人が入っていないと「直してください」といっても、メインファシリテーターだけ務めている方をお願いするのは難しいと感じた。 ・従来の現任チームで、全体の流れを知っている藤田さんが担当になっていただくのが、流れが分かっている研修づくりをしてきた方であり、適任であるかと考えている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・メインファシリテーターの方々をお願いするだけでは非常に難しいという部分に関しては、昨年度まで、初任研、現任研、主任研でやっていらっしゃったメンバーの方々にサポートでお入りいただくことを、できればお願いしたいと思っている。
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんとほぼ同じだが、誰かがしなければいけないのは重々承知であるが、大変だなというところと、現任研が年度内に動かなきゃいけないことは、後の初任研や主任にも全部被ってくると思う。現任研とは言わず、来年度はメンバーが変わるかもしれないが、土台を作ってしまった現任研スタートのところから「こうしましょう」みたいな形で、ある程度、道を作っておかないと、来年度またメンバーが変わってどうしますかという話では、なかなか難しいと思う。 ・そう考えたら、現任研のスタートに併せて、年度は替わるけれども、やり方は決めておいた方が、多分皆さんもあたふたしなくていい。多分毎年絶対出てくる話なので、ある程度決めておいた方がいい。 ・今年度のやり方がどうだったかというのも振り返りもしたほうがいい。今回担

	<p>当制にしたことは別に駄目ではないと思う。よかったところもあると思う。振り返りをちゃんとしてから、次につなげていかないといけないと思うので、その辺のところは、現任研に向けて、時間もそんなにないので、早めに動かないといけない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰かがしなきゃいけないというのは十分分かっているので、ルールというか、ある程度決めていただいたほうが動きやすいのかなと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局に、年度内の動きに関しまして、どの程度できるのかということをお教えいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の準備については、現任研修は令和4年度内に演習ノートと進行用スライドの完成を目指したいというところ。 ・会場開催を想定しているため、オンライン用と会場開催用の演習ノートと進行用スライドの二つが必要と考えている。 ・準備に当たっては、検討会委員の皆様ではなく、研修のメインのファシリテーター、教室進行を担当してくださった方に声かけをしてきているところだが、まだ人数がそろっていない状況。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、今年度中に、現任研修のことをよく知っていらっしゃる方にサポートいただくことを明確にして、お手伝いをいただくという方をお願いしても良いのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までも翌年度の冒頭に行う研修の準備は前年度から行っており、来年度の準備を前年度中に行えると考えている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドやノートづくりはメインファシリテーターをお願いしつつ、検討会委員の皆様にサポート的なお願いをするイメージか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・教材づくりの経験のある皆さんが検討会に大勢いらっしゃるのので、サポートしていただくと新しく教材作成を担当する方は作業がしやすくなるので、お願いできたらと思う。 ・メインファシリテーターのお願いは声かけをしているところで、事務局としては、時間もないので、今日は年度内に作業をすることについてご了解がいただけるかを決められたらと思うが、いかがか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうすると、実習チームの皆様に藤田さんを中心につないでいただく役割をお願いしたいと思う。補足的なところでは、過去の現任研修を担当した方々にお手伝いいただくことについてお認めいただく形で良いのかどうか、ご意見いただければありがたいと思う。 ・昨年度、現任研修としてリーダーでいらした中島委員、いかがか。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現任研修チームは、3月までに資料を作成、6月ぐらいまで集まって説明会の準備を進めていて、去年の冬から6月までというのが一番佳境だったかと思う。 ・そういう意味では、今から現任のチームで実施したところを実習チームにお願いしますという多分混乱してしまう部分があるので、新しく藤田さんを中心としたチームが発足する方が、整理としては分かりやすいと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> • その中のメンバーに実習のチームの人たちや旧現任研のチームの人たちが入っている方が、実習チームが現任を全部やることになるのも、負担感があると思うし、今年度の初任が特にそうだったと思うが、立てつけ上、教室担当（メインファシリテーター）の人を中心にやろうと言ったけれども、実際、難しかったり時間がなかったりというところで、前回やられていた杉田さんや花形さんが中心に作られたという経過があった。 • そういう意味では安井さんがおっしゃったように、ある程度、初任とか主任も、チームみたいなものを、来年度明けてからではなくて今年度の終わりから少し早めに動かしていくほうが、全部が実習チームに行ってしまうみたいなのが食い止められるのかと思う。 • 名称の部分は少し分かりやすくした方がいいのかと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 状況がよく分かった。 • 去年までの現任研修のことを把握されている現任チームがあり、まだお残りいただいている委員の皆様もいらっしゃるので、お手伝いをいただくという形で、細かいメンバー構成は、この検討会の後にご調整いただき、現任の進め方をご検討いただくことで、この場ではお願いをさせていただきたい。 • 藤田さんに中心メンバーとしてお願いをできればと思う。 • 今回は自治体の連携をどうしていくのかということと、検討会の役割をどうしていくのかというのを少し試験的なチーム構成にしてみたが、うまく血が通っていない部分があったのかなとは思っているので、第4回でどういうふうな方向で修正をしていくのかを話し合えればと思う。 • 各研修の流れのところなどは、次回までに課題整理をして、次年度に引き継げればと思っているので、ひとまず現任研修の準備は、先ほどのような形で進めさせていただくということでご了承いただきたいと思う。
各委員	(了承)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 2つ目の検討事項となるが、主任研修の受講条件と教材としての動画作成ということに関してご意見を頂戴できればと思う。 • 内容整理チームでのお話をお伺いしたいので、高江洲委員のほうから補足的にご説明いただけたらと思う。
高江洲委員	<ul style="list-style-type: none"> • 私は主任研修を受けたことがないので、主任研を受ける意味合いのところで言うと、加算が取れたり、現任研の次のステップアップとして主任研を取るイメージもあったが、検討の中でそれだけじゃない主任の役割の話が出た。 • そもそも主任の役割は、現任や初任の相談支援専門員のフォロー、ケースの相談に乗ったり、スーパーバイザーをしたり、活動している地域の中で多職種で障害福祉だけでなく色々なものもつなげたり、発掘したり、提案したり、協議会だけでなく地域の中でインフォーマル的な活動をしている、個別支援だけでなく地域として社会支援を生み出す立場でもあることを伺った。 • それを実際、やっているか、できているかということところが、主任研修の申込

	<p>みの段階で、なかなか東京都側としては見えにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この相談支援専門員の研修に関わっている人だったら見えやすいが、地域の中で活動をしている人というのは、履歴書や活動報告書を書くわけでもなく、各行政窓口、市区町村窓口側が認めれば、そのまま通っちゃうところもあり、もう少し基準を定めて行政窓口側も基準に照らし合わせて申し込んでもらえるものがあるといいという話をしてきたと思う。 ・その基準となるものがどういうものだったらいいのかをここの検討会で示せるといいということ。 ・動画に関しては、演習指導者養成研修の方々やSVを地域の中で初めてやる方にモデルとなるものがあれば、説明会も必要かもしれないが、それがいつでも見られることによって、地域の中で研修の担い手となる人たちが増えるんじゃないかということと、主任研を受講した人たちが、所属の組織として活動が難しいから、動画を見ることで、よりその地域に還元できるような仕組みをつくるための一つの教材づくりとしてであると便利かなというところで話が出た。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・主任の条件は、あった方がいいのではないか、ファシリテーターの不足もずっと課題として挙がっているので、そこから派生することかと思っている。 ・最終的には地域還元を目指すようなオンデマンド動画の作成は、目標としてはすごく効果的なのかなと思った。 ・この辺りについて、杉田委員、内容整理チームのほうから出た、もう少し思うところについて率直なご意見を頂戴できればと思う。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・主任研の推薦については、例えば、行政としてはどの人がどんな活動をしているかを把握していないので、申込みがあったら取りあえず最低限の要件、年数とか、そういったことがクリアしていたら推薦に上げちゃうことがあって、現場の相談支援専門員からすると、あの人は何もやっていないよね、みたいなことがあった。 ・主任研を受けて、その後、しっかり活動してくれているなら、それはよかったということになるが、実際はそうではなかったので、推薦の段階でちゃんと見極めることは必要だなと思っていて、今は行政が推薦だが、推薦を決める会議体みたいなところを官民協働で、例えば基幹相談支援センターと行政なのか、地域生活支援拠点と行政なのか、それは自治体によって拠点機関をどこにするか別だと思うが、そういう合議体で推薦をしてもらえたらいいのではないかと切に願うところ。 ・動画については、どこまで丁寧にすればいいのかという話ではあるが、東京都の規模の大きさを考えると、身近な地域で丁寧に人材を育成していくのはまだまだ難しい。 ・例えば、初任研を受講する立場の人にとっては、全体の講義でニーズ整理や5ピクチャーズを共通事例と一緒にやったからとて、実際に自分の個別の事例でやってみたからとて、理解は簡単にはいかないもので、繰り返し繰り返し見て学

	<p>ぶことができるというのは大きなメリット。</p> <ul style="list-style-type: none"> • また、地域実習で教える立場の人は、経験年数の多い方だったりすると、東京都のツールを知らないこともあるので、そういう方たちには見てもらって学んでもらう。 • どのレベルの人でもいつでも見られるようになっていけば、繰り返し繰り返し見ることで、本当に使い方も分かってくるし、その意味もちゃんと伝わっていくようになるのではないかと思っている。 • 特に、ニーズ整理や5ピクチャーズは、千本ノックぐらいやらないと、本当に自分の身にはならないと思うので、そのためのツールとしてあったらいいなと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 今までのご意見を伺っていて、主任の条件は置いておいて、教材のほうは効果としては非常に高いのかなと、今、動いている実績があるので、ぜひとも作成の方向でという意見で全体としてはよろしいか。 • ただ、誰が作るか、どういうふうにするかということは、今後の話になってくるので、東京都と相談をしていきたいと思う。 • もう一つの主任研修の受講条件につきましては、いわゆるメリットとデメリットが必ずあると思うので、メリットがある分については条件をつけるということはもちろんだと思うが、デメリットの部分については、潰していく必要があると思うので、その潰していく条件をきちっと詰めていきたいとは思っている。 • 今、この間で条件をつけましょうということを決定していくのは、この会議ではできないかと思っている。時間も差し迫っているので、第4回も引き続き検討事項として計上させていただきたく思う。よろしいか。
各委員	(異議なし)
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 続いて、3点目の実習の検証についてご意見を頂戴したい。 • 実習チーム委員の皆様から、少しお話を頂戴したい。
神作委員	<ul style="list-style-type: none"> • 実習の委員で話をしたところとしては、地域の拠点の人たちが対応する実習を作っていくって、どのような効果があるのかというところが、これからの改善材料にもなっていくし、実際、受けた人たちがどのように現場に生かせるようになっていたかの効果も測りたい。 • ただ、具体的にアンケートというところについては、まだ詰め切れていなかった。検証自体は行ったほうが良いという話になっていた。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> • 私の地域で、受講生にアンケートを取って、それを集めて行政と拠点对応をした人と振り返りを行った。ただ、受講生からアンケートをもらって、対応評価、振り返りというのもそうだが、できれば主任研修を受講して、対応する側になってくれるような人がいないかというのを、地域で見極めていくという目的もあった。 • 東京都でアンケートや振り返りをしてという効果や、その目的というところで考えると、また違ってくるのかなと思った。

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・質問項目は、こういった形で考えられたのか。自治体、行政の方と一緒に考えられたものか。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。行政と拠点機関で、四つぐらいの項目だった。回収率が高いかと思い、行政から発信と回収のお願いをしている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ役として適任と思う。 ・安井委員、同じチームとして思われていることを率直に頂戴できればと思う。
安井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは大事かと思っていて、特に異論はないが、実施時期も含めて、どのタイミングで、どう生かしていくのか、直近ですぐ生かすのかという、アンケートの目的と、どう生かしていくかを決めておけると良い。 ・アンケートの活用方法のところ、具体的な検証の仕方もある程度決めておかないと、せっかくやったのにもったいないかなと。その辺が少し見えてくるといいのかなと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに、アンケートについていかがか。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この効果測定というのは、地域実習そのものについてのことか、それとも、地域実習説明会のことか。 ・もし、地域実習そのものの効果測定ということであれば、これは国のほうで効果があると言い切ってスタートしているので、改めて東京全体として、効果測定が必要だとは私はあまり思わない。 ・なぜかといえば、国がそうしているというのもあるが、地域の特性って違うので、全体でやるというよりは、それぞれの自治体でそれぞれの自治体のやり方で取り組んでいるから、自治体ごとにやる。 ・その自治体の先につなげるという意味では分かるが、この検討会として効果測定すべきものとしては、地域実習の説明会での行政に対する説明が伝わっているか、生かされたかみたいなどの効果測定だったら分かる。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私は効果測定よりは、よく国の調査であると思うが、本来あるべき、こうしたほうがいいよねといった、例えば、行政と拠点機関とが説明会と一緒に参加できたかということや、どれだけ拠点の人たちと行政のほうで話し合いを持てたかのようなことや、本来の相談支援体制づくりを促していく意味で調査をするのはすごく有効かと思っていた。 ・来年度以降、こういうふうにしたほうがいいんだな、こんなふうに地域で体制を整えていけばいいんだなというところを、地域の基幹も足並みをそろえて、一歩進めるような調査であるといいと感じた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田さんから地域実習の説明会の内容がどこまで浸透されているのかということや、打合せの段階でもご報告いただいております、その部分をきちっと効果測定をしていくことかと思っている。 ・中島委員がおっしゃったとおり、自治体とSVを担ってくださる方々に、どういうふうに我々の説明が伝わっているのか、それをどういうふうに生かしていくのか。また、地域で核となる主任のチームの形成ができるような形に、今後

	<p>は発展をしていくための、最初の効果測定かと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 私の言葉足らずで混乱をさせてしまったが、拠点機関や行政の関係者への説明会を実施した後の効果測定について、皆様、異論がないということで、検討会としてはアンケートを実施したほうがよいというところよろしいか。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今、杉田さん、中島さん、おっしゃられたこともよく分かった。もちろん実習を地域で対応していただくことで効果が出ることは予測できる。 例えば、前年度の現任研修を担当していただいた方に聞いてみると「私のやり方でよかったのかどうか分からないんです」という声も聞こえてくる。 花形さんの地域のように自主的にやったださる自治体と、こういった動きをしながらもまだ活動が実らない自治体も多くある。 対応していただいた相談支援専門員の気づきもアンケートの中で得られるものになればと、個人的にはそんな思いもあって、今回のチームの提案をさせていただいた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 確かに説明会の理解をいただけたかどうかはもちろん、アンケートの構成としては、さらに少し掘り下げた項目を付加していくと、実習チームでお話ししていただいた内容も酌み取ったアンケートが構成されるか。 ただし、たくさん項目だと誰も答えてくださらなくなってしまうので、簡潔に構成をしていく必要があるかなというふうには思う。 メインは説明会がどういう形で地域の方々にご理解いただけたかを問うものと、実際に地域実習がどういう形で動かしているのかどうかを項目で盛り込めたらという方向でよろしいか。
北川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 内容には全く異論はないが、私たちが東京都の中の地域を知る材料にすることは大事。 自分の地域をまず行政がアンケートによって知っていただくということの大切さ。東京都全体の地域の在り方が、アンケートから見えてくると思う。 来年度、地域実習の好事例を選定して、こんな地域がありますと地域の底上げをしていくことで、効果測定というよりは、検討委員会とか研修がどう関わったら、地域がよくなっていくのかという効果測定と考えたほうが、私はいいと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 東京都は広いので、各エリアの特性があると思う。北川委員がおっしゃっていたことを盛り込めたら、そういう方向性で行けたらと思う。 最後になるが、人材育成チームの報告の1枚目のところ、北川委員から、私たちから自治体へ相談支援専門員はこういうものですよということを理解してもらうには、凝縮させないといけないと思うが、この点についてご意見頂戴したい。 北川委員から補足的に伝えておきたい部分をご説明いただければ。
北川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> これを出すとすると、本年度の検討会の在り方として表れるものであるので、皆さんにきちんとご意見をいただきながら作っていかないといけない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・1回出てしまったものは、すぐに引っ込めることができなくなってしまう。 ・また、どの方向からこれを書いたらいいのかという難しさも感じたので、その辺のところを皆さんにご意見いただいて、今日、答えを出すということではなく、こんな方向からとか、ここから引用するのが正論ではないのかというところを教えていただき、また次に佐藤先生と一緒に考えていきたいと思っている。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは整理チームで研修の仕組み部分を作って、そしてノートを書いて、何の打合せもしていないのに言葉が重なっているところが幾つかあった。 ・真ん中辺の「この質の向上は障害福祉にとどまらず、地域力を底上げする一端となります」や「研修は複数ありますが、それぞれはつながりがあります」というところ。 ・チームは違うのに、同じ思いで動いていたんだなということを感じた。 ・北川さんが3枚目のスライドにしてくれるといった研修の仕組みを説明する上でも、この辺を意識して作成したので、全体の資料としてのつながりが感じられると思った。 <ul style="list-style-type: none"> ・難しい言葉を使っているところもあるが、割とすっと頭に入ってくると感じた。 ・1点、初任研、現任研、主任研という言葉をあえて使うか、それとも研修が複数のような形の表現にするかの辺りは、気になった。
藤田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今さらというか、国でも東京都でも使っている「共生社会」という言葉。普通に出てくる言葉だが、この共生って誰と誰なのかが気になっていた。 ・多分、障害者とそうじゃない非障害者の共生社会という意味なんだろうかなと思うが、共生という表現で取れる意味合いが幾つかある。 ・本来は同じ地域にいるそれぞれかと思うが、ニュアンス的にも難しいし、一般的に使っている言葉なので、どうしてもというわけではないが、ちょっとだけ気になっているというところをお伝えしておきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・蛭川委員と藤田委員からご指摘いただいた「複数」のところと「共生社会」のところをもう一度検討させていただければと思う。 ・以上4点の課題について検討させていただいたが、おおよその方向性としてはご承認いただけるか。
各委員	(異議なし)
(3) その他	
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に準備をした検討事項は以上となるが、何かご意見等がおありの方がいらっしゃればご発言いただきたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私が整理チームでチームアプローチの整理をして感じたところで、来年度に向けて考えていることとお話しできればと思う。 ・佐藤和也さんの事例について、チームアプローチの整理をしていく中でも、例えば地域資源の中に基幹相談支援センターや拠点がなかったり、かなり古い設定になっていたり、社会情勢も違和感があるところがあると思っていた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・私が所属している東京都の相談支援ネットワークの運営委員会の中で、副代表の昭島の吉澤さんからもお名前を出していいとご了解を得られたが、例えば和也さんのおばあさんの介護をお母さんがするという設定のあたりが女性差別に当たるのではないかと、和也さんの介助はお母さんがしているとしたら、性自認の妨げとか、お母さんへの女性性の侵害の懸念にも当たるんじゃないかといった、様々な角度から事例を新しく作り直していく必要はある。 ・来年度になるかと思うが、事例についても検討をしていく要素としてあることを今の段階として発言できればと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・事例はブラッシュアップしていくのが追いついていけないので、かなり大変かなと思うが、検討会としては修正をしていく方向でよろしいか。
各委員	(異議なし)
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4回目の検討会が恐らく3月ぐらいになろうかと思うが、今年やってみて検討会の委員の役割の再確認などが、3月の意見交換で間に合うのかというのが心配ではある。 ・検討会委員とメインファシリテーターの役割、研修づくりをしていくのはどこで等、安井さんがおっしゃっていたが、今年度やってみた振り返りと、来年度の仕組みの作り直しが必要なところは話す必要があるかと思っている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・現任のチームの検討も今回しなければいけなくなったことも含めて、検討会の中でのチーム構成の仕方についても、検討していく必要があるかと思っている。その点は引き続き事務局のほうと検討してまいりたい。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今の花形さんの話されたことと関係するが、次の全体会で今後のことを決めるのではなく、それまでに来年度のチーム構成の案をある程度出しておくことだが、メンバー構成までは前年度と同じようにいかないとは思う。 ・来年度は三つのチームだけでなく、そこにかぶる初任者研修、現任研修のフォローアップチームもあり、五つも六つにもなるかもしれないということは次の全体会で決めるのか。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・合意形成は検討会でと思っているが、それまでにチームの代表の方にお集まりいただいて、事前打合せを回数を重ねさせていただくことになろうかと思っている。 ・トライアルで今年やってみた部分もあるので、うまくいっているかないかも含めて、全体的に意見を拾っていかなければいけない。 ・第4回目の検討会だけで決めてしまうのは、恐らく不可能かと思うので、ワーキングというか、意見聴取の場とかを捉えながら、第4回を開催していくという方向になろうかとは思っている。
蛭川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・さきほど、藤田さんを中心として、去年度の現任研修チームの方が来年度の現任研修のチームのフォローアップするチームをつくるとまとまったが、今度はその次の現任研修や初任者研修はどうなるんだろうということが、結局、浮上する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・経験者をスライドしていかないと、いきなりつくる立場とか、フォローアップは難しかったりもするので、その仕組みが欲しいし、この検討委員会へ新しい人をピックアップするという道筋も前にあった協力者のようなところ、そのよしあしもあるが、段階的な流れを存在させるさせないも、委員が循環していく上ではとても大事になるので、そういったことも含めてお話ができたらと思った。
北川副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、現任研修は新カリキュラムになって会場での開催をやったことがない大変さがあるから、気持ち的に焦りが出ている。初任者研修は2回のうち1回を会場でやっているの、元に戻せばいいだけ。 ・協力者は、前は国研を修了した方が参加されていたということが協力者としてやりやすかった部分があった。今の協力者はメインファシリテーターになった方で、その辺の違いを踏まえないと、同じ話がぐるぐる回ってしまうかと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・皆様のご意見を踏まえ、次回の検討会を進めさせていただきたい。 ・検討事項は、全て終了したので、進行を事務局にお返しする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・佐藤先生、お時間に収めていただき、ありがとうございました。 ・次回に向けて、事務連絡をさせていただきたい。 ・第4回検討会は、令和5年3月8日、水曜日の午後2時から4時まで。できれば対面で実施したい。状況を見てご案内をさせていただく。 ・今日、いろいろとご意見いただいたので、どのようにに進めていくか、メーリングリストを通してご相談をさせていただきたい。